

道徳科研究発表 11/13(月) 【6年生学級通信より】

先日11月13日(月)に、中村南小学校道徳研究発表会の公開授業がありました。教材「真海のチャレンジ」の学習をしました。価値項目は「よりよく生きる喜び」という新しい内容項目です。内容は、病気で右足を失った主人公が、不安や困難を乗り越え目標を持って前向きに生きていく姿から、人としてどう生きていくべきか考える学習です。子どもたちは、はもうすぐ中学校に進学し、さまざまな困難にであらうと思います。そんなときでも、いつも自分自身をみつめ、自分の弱さに目をそむけることなく、自分の可能性を信じ、よりよい生き方をめざして進んでほしいし、そのためには「自分を見つめ、前向きに生きていくこと」のすばらしさや気高さを感じ、その意義について考えることは大切なことです。主人公のような壮絶な経験は、子どもたちも経験したことはありませんが、自分のこれからはしっかり見つめ考え表現していました。子どもたちにとってはまだまだ多くのことが未経験で、自分の弱さに直面したり、様々な失敗を経験したりする。それでも、前向きに自分らしく生きていくことの良さについて、子どもたちといっしょに考える時間になりました。

子どもの経験値の少なさが表面化している現在、私たちが子どもの頃と社会は全くちがっていて、生活も変化していることは否めません。ですが、失敗をおそれずチャレンジすることで、それぞれに何かをつかみ取ってほしいですね。また、中学校生活を自分の力で切り開いて、前向きに自分らしく生活してほしいと願っています。

【2年1組学級通信より】

2年1組は5校時に道徳の授業を公開しました。『虫が大すき アンリ・ファール』という教材で、「自然愛護」について考えるお話でした。お家の皆さんも御存知だと思いますが、アンリ・ファールは『ファール昆虫記』という本を書いた人です。幡多地域内からたくさんの先生方が授業を観に来て下さいました。授業では、ワークシートを書いた後、3～4人でグループトークをしたり、ファールが虫を木に逃がす場面を動作化したりする活動を入れ、子どもたちが頑張っている姿を観ていただきました。

《子どもの道徳ノート》

- ・わたしは、ファールは虫をいのちよりも大切にしていると思うし、ファールはわたしからみたら、すごくやさしくしていると思うから、これからもやさしくしてほしいです。わたしがファールだったら、かんさつしたいという気持ちがあっても、「お母さんたちがまってるから、行ってきたよ。」とやさしく木にかえしたいと思います。わたしは、今日、いっぱい先生が来て、きんちょうしたけど、ゆうやくんがグループトークの時、がんばってはっぴょうしていたので、すごいと思いました。(N・R)
- ・ファールは虫をすごくだいじにしていたんだな、そんなに虫がすきなんだなとぼくは思いました。ぼくはちっちゃいころ、虫がすきだったので、ふりかえれば、その気持ちわかります。ぼくは、じゅぎょうのはじめに見たファールが作った虫の本をちょっと読んでみたくまりました。今日、ぼくははっぴょうできて、うれしいです。いっぱいの人に来て、きんちょうしたけど、できてうれしかったです。(K・R)
- ・虫をいじめたりしている人をちゅういしたいです。ちゅういしたらやめるかもしれないからです。やさしくしたら虫もよろこぶと思います。アンリ・ファールさんは、虫がすきだけど、けんきゅうをしたら、もとの場しょにかえしてあげていたので、やさしいなと思いました。わたしは今日のべんきょうで、いっぱいはっぴょうできたと思います。今日はいろいろな先生やきょうこ先生が来てくれたので、うれしかったです。今日のべんきょうは楽しかったです。(W・Y)

校長より：6年、2年は「真海のチャレンジ・虫が大好きアンリ・ファール」の教材を使って、道徳的価値の理解を自分自身の関わりの中で深め、多面的・多角的に考える授業を目指して授業を展開しました。動作化やグループトークで互いに考え議論し自分流に感じたことを発表していました。